平成２８年度市政懇談会　開催結果概要

●日時　平成２８年７月１４日（木）午後３時～
●会場　阿寒湖まりむ館
●出席者　２９人

【市長挨拶】

○はじめに

本日は市政懇談会にご出席いただき、ありがとうございます。

市政懇談会は、市が取り組もうとしていることをご報告させていただき、併せて、事前にいただいた質問に回答しながら、地域のさまざまな課題を解決していこうというものですので、よろしくお願いいたします。

○アイヌ文化振興主幹の配置・ボッケ遊歩道の整備について

市役所の中に、アイヌの伝統的生活空間イオルの再生事業を推進するため、アイヌ文化振興を担当する主幹職を新設いたしました。業務実施にあたっては、主幹の他に嘱託職員１名を配置する予定となっています。ここ、まりむ館２階の図書コーナーの中に事務スペースを設け、近々、職員が勤務を開始することになっております。今後は、北海道アイヌ文化振興財団と打ち合わせをしながら、阿寒ならではのいろいろな情報発信を進め、イオル再生事業に取り組んでまいりたいと考えております。順調に進みますと、平成３０年度からの事業開始を予定しております。

また、環境省が所管する「ボッケ遊歩道の整備事業」が行われる予定です。エコミュージアム裏の木道が整備され、具体的な内容としては、ボッケ広場・展望広場の前後のユニバーサル遊歩道への整備、ボッケ遊歩道から湖岸の中道までのウッドチップ舗装が予定されています。平成３０年度までにさまざまな整備が行われるということで、さらに阿寒の魅力をしっかりと発信できる整備につながるものと思っております。

○観光振興の取り組みについて

最近の釧路市の話題として、観光立国ショーケースへの選定があります。今年１月に、長崎市、金沢市、釧路市の全国３都市が観光立国ショーケースに選定されました。阿寒地域に観光客、特にインバウンドの外国人旅行者を呼び込むために、２０２０年の東京オリンピックまでにさまざまな整備を行っていく取り組みです。庁内にも、この取り組みを各分野にわたってしっかりと進めようと、プロジェクトチームを結成しています。釧路、そして阿寒には、素晴らしい豊かな自然があります。阿寒にはアイヌ文化と連携し、自然と共生してきた歴史がありますので、しっかりと活かしていきたいと考えております。

また、環境省では、世界水準のナショナルパークとしてのブランド化を図るため「国立公園満喫プロジェクト」として、今後、５カ所程度の国立公園をモ

デル地区に選定し、国立公園の保護と利用を促進するため、外国人観光客を呼び込むための新たな戦略に集中的に取り組むこととしております。このモデル地区に選ばれることを目指して、５月には北海道知事を筆頭に、北海道、釧路市、その他関係団体との連名で、阿寒国立公園の選定を要望してきたところです。

今後、観光立国ショーケースと国立公園満喫プロジェクトを組み合わせて、豊富な観光資源を活かしながら、観光の取り組みを充実させていきたいと考えております。

併せて、３月１２日に高速道路の阿寒インターチェンジが開通しました。

今年のゴールデンウィークには、天気の悪い中、道の駅「阿寒丹頂の里」の来客数は前年比で４０％増となり、売り上げは２．５倍となりました。昨年１２月から阿寒マルシェがスタートしたこともありますが、確実に高速道路の開通による効果が生まれていると思っています。

人口減少社会の中で、地域に活力を生み出していくためには、お金を回転していくことが必要で、観光はお金をまわすための大きなツールであり、武器になるものです。特に外国人観光客の方は定住する方と比較して、国や所得層によっても違いますが、７倍から１３倍の消費をするといわれています。７倍の消費であったとしても、１年間は５２週ですので、外国人観光客が５２人来られた場合、この地域に定住している方が１人、１年間暮らすのと同じ金額を消費することになります。

また、「涼しい釧路で避暑生活」ということで、動物園の白くま「ミルク」を題材にしたしおりを用いて、東京のコーチャンフォー若葉台店や全国４カ所の図書館で涼しい釧路をＰＲしています。いろいろなところで、釧路の名前を出し、しっかりとＰＲに取り組んでいきたいと思っています。

○釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取り組みについて

人口減少社会に対峙しながら、しっかりとまちづくりを行っていこうと、昨年１２月に「釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定したところです。

人口の将来予想がベースとなっており、平成２２年に１８万１千人であった人口が、平成５２（２０４０）年に１０万６千人になると推計されているもので、そのような状況に対して、どのような戦略を立てながら対峙していくかというものになります。

釧路の人口は、昭和５５年の２２万７千人をピークに、今も減少し続けているところです。国の場合は人口減少社会を解消するための方法は、人の数を増やす以外にはありません。地方の場合は、子どもの数が少ないという原因もありますが、他に大きな要素があるために人口が減少していることが、このグラフによってわかります。

「年齢階級別人口移動」のグラフをご覧いただくと、１５歳から１９歳までの人と２０歳から２４歳までの人が転出超過となり、人口流出が進んでいることがわかります。転出超過の原因の一つとして進学がありますが、一番大きな

原因は就職によるものです。地元に働く場所がなく、市外で就職するために転出超過になっているもので、この点は、国と地方で大きな違いがあるところです。

女性が一生の間に何人お子さんを産むかという合計特殊出生率は、現状では１．３５となっており、人口を維持していくためには２．０７という数値が必要となります。

この現状を踏まえて、「将来の目標」は、出生率と若い世代の移動率の増加とし、平成５２（２０４０）年の目標人口を１３万８千人といたしました。

この目標を達成するために「未来への『希望』輝くひがし北海道の拠点・くしろ」を都市像とする総合戦略を定め、「人口減少に立ち向かうまちづくりの推進」のため、人口減少を「食い止める」「補完する」「対応する」、この三本の矢により人口減少に立ち向かっていくこととしました。

総合戦略で最優先課題と位置付けている「域内循環」と「外から稼ぐ」取り組みの推進により、力強い経済基盤を構築し、雇用の創出を図り、そして親になる世代を確保して急激な人口減少に歯止めをかけていきます。

「域内循環」は地域内でお金を回転させるということで、自分のまちで買えるものは自分のまちで買おうということです。特に今はインターネットで市外から買うということもあり、域内でお金が回らなくなるため、域内循環に取り組んでいるところです。

外から稼ぐということは、単に原料を出すだけでなく、付加価値を付けブランド化を進め、適正な価格で売っていくという考え方です。

この総合戦略では４つの重点戦略、５つの基本目標によりさまざまな施策の展開を図っており、一つひとつの目標に対して、具体的な数値目標を掲げています。

ここからは、分野別のお話をさせていただきます。

基本目標１「地域経済のプラス成長と雇用の創出を図る」では、数値目標として、「市内の総生産額を平成２３年度の５，７３１億円から６，５００億円にする」、「宿泊者数を平成２６年度の１２９万人から平成３１年度には１５７万人にする」ことを掲げています。ほかに農林水産業の成長産業化や、世界一級の観光地づくりなどを進め、目標を達成しようとしています。

基本目標２「釧路らしさを活かして人を呼び込み・呼び戻す」では、数値目標は、「転入者の６，３０２人を平成３１年までに８，０００人にする」、「長期滞在の人数８５４人を１，２００人に増やす」としています。

基本目標３「子どもを生み育てたいという希望をかなえる」では、結婚や妊娠を支える仕組みを実施し、子どもたちを安心して育てることのできる環境を作ろうとしており、数値目標として、「１年間に生まれる子どもの数を１，１５８人から１，５００人にする」、「特殊合計出生率を現状値の１．３５から１．５０にする」としています。

基本目標４の「安心な暮らしをつくる」では、数値目標を「医療従事者の数について、現状３，９６０人からプラス４０人の４，０００人に」していき、

併せて特別養護老人ホームの定員数を増やし、安全・安心なまちをつくっていくこととしております。ほかに、人口減少への対応ということで、コンパクトなまちづくりや交通ネットワークの充実、空き家対策の推進等もあります。

阿寒湖畔の人口は、私が前回就任したころは約１，４００人で、今は約１，３００人ということで、人口に対応して対策も変わってくるものです。釧路市も人口が２２万人の時に、２５万人の規模のまちづくりを進めてきましたが、現状の人口は１７万６千人となっており、さまざまなインフラをこの人口で支えることは過度な負担になりますので、人口減少に対応したコンパクトなまちづくりという施策に取り組んでいるところです。

基本目標１の中の「地場産品の振興と普及」は、先ほどお伝えした「域内循環」を進めていくというものです。地産地消を進めていく取り組みの中にはエゾシカ肉があり、普通、鹿は銃で撃っておりますが、阿寒では木を守るために鹿に餌を与え、捕獲して飼育し出荷するという形をとっており、銃で撃って処理するよりも肉質が良く、皮も利用できるということで、これは他の地域にはない強みとなっていると考えております。根釧牛乳についても、企業に協力いただきながら地産地消できる仕組みをつくってもらったもので、企業の協力を得ながら、地元のものを消費してお金を回転させていくことが重要です。「釧路ししゃも」や「釧路定置トキシラズ」についてもブランド化に取り組んでおり、どちらも知名度が高まってきたと考えているところです。

阿寒、音別との合併によって釧路の面積の７４％が森林となりました。このことによって、川上から川下まで、生産から消費までを行う取り組みとしてできたのが「木づなプロジェクト」で、こちらではさまざまな製品を作って消費につなげており、山の木の適正管理にもつながる取り組みとして実施しているところです。

併せて、楽天やイトーヨーカドー等の大手企業とも連携を取っております。楽天が地方都市と初めて連携したのが釧路市で、楽天のインターネットを活用しながら、釧路の地場産品や情報を発信する取り組みを行っております。イトーヨーカドーでは、釧路店で地元のものを扱っていただきながら、東京の一部店舗では、３月８日のサバの日に、釧路のサバである北釧鯖を販売していただいたことがあります。

次は、安全・安心を確保するということで、市立釧路総合病院についてお話しさせていただきます。

現在、市立病院の新棟建設を計画しているところです。市立病院は、釧路・根室管内、いわゆる三次医療圏で唯一の地方センター病院であり、高度で専門的な医療を行う、地域の中核病院としての役割を担っています。

救急医療においては、他の医療機関では対応できない病状が非常に重い救急患者に対し、常に高度な医療が提供可能な救命救急センターとして、また、釧路・根室・オホーツク・十勝圏の道東ドクターヘリの基地病院としての機能も有しており、平成２７年度のドクターヘリの出動は４９６件となっております。

このように重要な役割を担う市立病院ですが、昭和５９年に現在地に移転新

築してから３２年が経過し、施設や設備の老朽化が著しい状況となっています。また、医療機器の進歩により、最新の大型医療機器の導入が困難な状況になっています。

新病院においては、「地方センター病院」の柱となる６つの役割・重点機能を整備することとしており、そのうち２つについて説明いたします。

まず、「救急医療の充実」として、高度で集中治療を行う病床を、現在の１６床から、救急患者専用の１６床と院内手術後の重症患者専用の１２床に機能を分化し、医療サービスの向上を図ります。

そして「災害医療の充実」として、電気や燃料等のエネルギーと水の確保を、現在の１日分から最低３日分を確保することとし、医療活動が途切れることなく継続して提供できるよう整備します。

新棟は平成３０年４月から３カ年かけて工事し、平成３３年中の稼働を目指しており、建設費と医療機器・機械等を合わせ、２５５億円の事業費を見込んでおります。

病院経営を進めるうえで、きちんと収入を得ることやコストを抑えながら、多額の事業費に対応できるよう行っていきます。センター病院として必要な機能を持ちながら収益を上げていき、しっかりとした収支計画により事業を進めていきたいと考えています。

続いて基本目標４に関連した地域コミュニティのお話で、阿寒湖畔の場合は課題にはなっていないと思っておりますが、釧路地域では町内会の加入率が低下してきています。町内会に入っても何のメリットもないなどという話が聞かれますが、特に防災の観点からは、地域のコミュニティは何よりも重要となってきます。防災でよく言われるのは、自助、共助、公助ということで、最初はまず自分の力である自助、その次に周りの力である共助、そして最後が公助になります。自助には限度があり、また、公助の発動には時間がかかります。共助は町内会などの助け合いの部分で、ここを充実させていくことによって、本当に安全な地域をつくっていくことができるようになります。

○釧路市まちづくり基本構想の策定について

最後に「釧路市まちづくり基本構想」についてお話しいたします。

今までは国の法律に基づき、釧路市総合計画を策定していましたが、策定の義務がなくなりました。しかし、昨年１０月に施行したまちづくり基本条例この中に、議会・市民・行政が一体となってまちづくりを進めていくことを規定しており、共通の理念として「釧路市まちづくり基本構想」を作ることといたしました。

現在の総合計画は平成２９年度末までとなっており、基本構想の策定にあたっては平成３０年度から１０年間の計画を立て、どのようにまちづくりを進めていくか、皆さんとしっかりと議論していきたいと考えております。

また、アンケートなどにより、皆さんのご意見をお聞きする機会を設けたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【地域からいただいた課題等への回答】

○まりもの里商店街の活性化について（阿寒町行政センター長）

エコミュージアムセンター前の広場につきましては、面積が約４，６００㎡あり、災害等の緊急時に避難するための釧路市の広域避難場所に指定されています。また、この広場につきましては、環境省が所管している土地であり、駐車場の用途としての利用目的に転用するのは難しい状況です。

商店街の活性化につきましては、駐車場の問題、空き店舗の増加、空き住居対策、後継者育成等も含めて、総合的に考え、取り組んでいかなければならない課題であり、魅力ある街づくりを目指すために、地域一体となった商店街活動を推進することが重要であると考えています。

○まりむ館の運営組織について（阿寒町行政センター長）

まりむ館が供用を開始して８年が経ちます。建設に当たっては、地域の多くの方に設計から利用にいたるまでさまざまなご意見とご理解をいただき、今日に至っているところです。

また、プランターの設置や花壇の整備など、日ごろから行っていただいているボランティア活動に対しまして、感謝を申し上げるところです。

施設の維持管理につきましては、利用者の皆さま側に沿った対応に努めているところでありますが、施設設備の経年劣化による傷みも気になってきているところでありますので、不便をおかけしないよう更新等に努めて参りたいと考えています。

運営組織を構成することは、現時点では考えておりませんが、利用団体の皆さまとの意見交換会などの開催を考えていきたいと思います。

また、まりむ館の年間経費は、平均すると１，２００万から１，３００万円ほどで、うち半分が、燃料費と光熱水費で６００万円ほど、残りの６００万円ほどが、法定点検や清掃、休日・夜間の管理委託料となっており、この一部につきましては、地域の皆さまの雇用の場の一助にもなっているところです。

○住宅対策について（阿寒町行政センター長）

少子高齢化の進展や、人口減少の社会情勢の変化により、釧路市の住宅施策における状況や課題には変化と多様化が生じております。

阿寒湖温泉地区に限らず、釧路市の世帯構成比は、１人、２人世帯の比率が増加し、世帯規模が縮小しており、また１人世帯に占める高齢者世帯の割合も増加していることから、小規模世帯向けの良質な住まいを確保することが求められているところです。

また一方では、この地区は国立公園内であるため、宅地や民間のアパート等、賃貸物件が極めて少ないという、特殊性があるところもご理解いただきたいと思います。

釧路市では、今年度と来年度の２カ年で、住宅施策全体の基本方針を定める

「釧路市住生活基本計画」と、既存の公営住宅の建替えや修繕計画を決める「釧路市公営住宅等長寿命化計画」を同時に策定することとしております。

これらの計画を策定するに当たり、阿寒湖温泉地区のニーズの把握に努め、だれでも安心して暮らせる住まいの形成を、促進してまいりたいと考えています。

○若草団地の整備計画について（都市整備部長）

公営住宅の改修等につきましては、釧路市全体の公営住宅の改修等を計画的に行うため、平成２５年３月に「釧路市公営住宅等長寿命化計画」を策定しており、まりも団地（若草団地）につきましても、この計画に位置付けられております。この計画につきましては、本年度と来年度で見直しの作業を行い、まりも団地（若草団地）につきましても、計画の見直しの中で、老朽化や入居状況を踏まえながら検討していきたいと考えております。

○小・中学校の整備について（学校教育部長）

阿寒湖小学校、阿寒湖中学校の校舎の改修・改築計画についてです。

阿寒湖温泉地区における小・中学校の施設を含めたあり方につきましては、教育委員会としても早期に進めるために、今年度、保護者をはじめ地域の皆さま方との意見交換を開催することとし、第１回の意見交換会を、去る６月２日に阿寒湖小学校を会場として開催し、２５名の方にご参加いただきました。この意見交換会で出されましたご質問、ご意見などに対する回答等を行うために、７月１９日に２回目の意見交換を開催する予定であり、今年度中には阿寒湖温泉地区の小・中学校のあり方についての方向性をまとめていきたいと考えております。

また、特に施設の老朽化が著しい阿寒湖中学校につきましては、校舎の雨漏りのほか、網戸の整備、またトイレの洋式化など、現場を確認のうえ、授業等に支障をきたさないように対応しているところです。

今後とも、阿寒湖小・中学校の教育環境の整備にあたっては、現状の施設を維持しながら、学校のあり方を含めて、地域の皆さんと意見交換を重ねて、可能な限り早期に方針をまとめてまいりたいと考えております。

●質疑応答

【参加者Ａ】

私の職場にも女性社員がおり、阿寒湖地域で働きやすい職場づくりを目指しております。お子さんを抱えているお母さんは、子どもの預け先がなかなか無く、預け先としては子供交流館があるとのことですが、利用時間が午後５時までとのことです。午後５時１５分、または５時３０分まで時間延長していただけないか、ぜひ、検討していただきたいと思います。

【阿寒町行政センター長】

阿寒湖温泉地区には、保育所という施設はありません。マリモ幼稚園と併用

して、児童館機能を併せ持ち、午後５時までお子さんをお預かりしているところです。

平成２９年までに待機児童をなくすという国の施策があるため、阿寒湖温泉地区、阿寒本町地区も含めて保育所の検討に入っているところです。

また、企業内保育所の設置を検討している企業もあるとお聞きしており、鶴雅さんの保育所と行政との連携を取れるかどうか、速やかにご相談をさせていただき、今年度中に方向性を出していきたいと思っております。

【参加者Ａ】

働いていて本当に困っているところで、何とか融通できないものでしょうか。１５分間ほどの時間です。

【保健福祉課長】

阿寒湖温泉地区に延長保育はなく、マリモ幼稚園に併設する形で子供交流館において保育が可能となっております。５時以降につきましては、有料となりますけれども、社会福祉協議会の子育てサポートセンター・すくすくで、お子さんをみていただける事業もありますので、そちらとの併用もお考えいただきたいと思います。

【市長】

阿寒湖畔には、郵便局、金融機関もあり、公的な機関としては、消防があり、また警察の駐在さんもおります。釧路市内の保育施設では午後５時までというものはなく、延長保育という形で、働いていて遅くなる場合には午後７時まで預けることができることになっています。

ここ阿寒湖畔では、今、さまざまな取り組みがありますので、まずは検討し、どのようにできるのか早急に、行政センターからご連絡させていただきます。

【参加者Ｂ】

私は、昨年１１月にこちらに来たものです。阿寒湖漁協の方とお話をした際に、阿寒湖のヒメマスは水の効果もあって、支笏湖よりも美味しいという話がありました。ザリガニはレイクロブスターとして名産となっております。先ほど、地域ブランド推進協議会のお話の中で「釧路ししゃも」「釧路定置トキシラズ」の話がありましたが、ブランドの中に、阿寒の特産品を入れていただいて、日本全国、世界まで周知していただくことはできないでしょうか。

【産業振興部長】

阿寒湖のヒメマスは非常に有効な地域の特産品だと思っております。現在も、阿寒湖漁協、旅館組合を含めていろいろな形で広めておられることは承知しております。市でもいろいろな形でＰＲに努めたいと思っています。阿寒マルシェでの取り扱い等も含め、現在検討中です。阿寒だけのブランド、また釧路地域だけのブランドということではなく、市全体の中で、阿寒湖自体のブランドづくり、ＰＲも含めて、特産品をどのように扱っていくかについてしっかり考えていきたいと思っております。

【参加者Ｃ】

冒頭、蝦名市長からお話があり、観光立国ショーケース、国立公園満喫プロジェクトについてはとても大きな夢をもらったと思うと同時に、重たいものを背負ったという気もしています。

私は観光協会でスキー場を担当しておりますが、スキー場もかなり老朽化しており、特にショーケースの考え方では、今後のスキー場のあり方についていろいろ悩ましいこともあるため、職員をニセコ方面に派遣し、シーズン中とシーズン後に視察を行ってきました。ニセコには外国人客がたくさんいて、外国人客に対して完璧なほどの対応ができています。

今後、具体的なスケジュールは、おそらく市がリーダーシップをとり、国と地元とで調整していくものと思っておりますが、スキー場でも自分たちでやれることはやっていこうと、レンタルスキーや、高級化を図ること、店舗を作り直すというところまで話を進めています。今後のスケジュールとともに、これに対するショーケースや、満喫プロジェクトに関する国からの手当てなど、どのような計画に対して、どの程度の国の予算付けがあるのか知りたいと思っています。

しっかり計画を立てていきたいと思っておりますので、我々が果たすべき計画レベルを教えていただきたいと思います。

【産業振興部長】

観光立国ショーケースに釧路が選ばれ、スケジュールも含めてさまざまな作業を進めているところです。地元の大きな期待は、大変ありがたいことと思っており、現在、釧路市が中心となって、ＮＰＯ法人阿寒観光協会まちづくり推進機構、釧路市内の釧路観光協会とＤＭＯという形で、経営感覚を持った観光団体として衣替えをしているところです。

この観光団体と行政が一体となってさまざまな計画案を作り、国と協議を始めたところです。観光立国ショーケースは、これまでのさまざまな補助支援制度と違い、補助枠を持つ制度ではありません。地域が考えた提案や考え方を、観光庁を中心として、文化庁、法務省、文部科学省、農林水産省や経済産業省といった省庁により構成された省庁連携支援チームにおいて、私たちの計画の具現化の方法を一緒になって考えていただくもので、現在、話し合いが進められているところです。

今後、現行制度に合わせて予算措置等のかなうものについては、一部、今年度から実行する可能性があると思いますが、基本的には来年度に向けて、概算要求に新しい制度を盛り込んでもらうことも含め、国と話をしているところです。

阿寒の地域の方々が行う準備についての話がありましたけれども、この地域が外国人観光客から選ばれる、魅力ある観光地域になるためには、計画について地域の中で継続して協議していただきたいと思っています。その中心となるのは、阿寒湖畔では、ＮＰＯ法人阿寒観光協会まちづくり推進機構だと思っておりますので、阿寒観光振興課と一緒に話し合いを深めていただきたいと思い

ます。

【参加者Ｃ】

ニセコに１２月、２月に行ったところ、１０割近くが外国人で日本人を探すことが難しいような状況でした。自分が泊まったホテルの宿泊費について、２万５千円ぐらいかと想像していたところ、８万円とのことでした。外国人の富裕層が来るということで、我々の感覚で２万５千円の想定のものが８万円もとれる訳で、ここをしっかりと意識しておく必要があります。

もう一つ大事なことは言葉の問題で、日本語は交わされておらず、レストランでもそれは同様でした。サイン、看板の外国語による表記については、今も課題となっていることであり、この際一気に進めるべきではないかと思います。言葉の問題については、観光協会が具体的な提案をするべきことかもしれませんので、やれることはやっていこうと思っております。

国で何かやってくれると多くの人が思っているところですが、お話を聞いてもそうではありませんので、市の情報を伝えていただいて、地元の覚悟も決めないといけないと思っております。

もう一つ大きな課題として、世界自然遺産への登録があるので、市長に考えをお聞きしたいと思います。

【市長】

観光立国ショーケースにつきましては、今までとやり方が違い、基本的には、既存のものを活用していくという方針があります。

サインの外国語表記は重要なことであり、阿寒湖畔のサインがどうなっているかは行政センターで把握しておりますので、データを活用してすぐに対応していきたいと思っております。また、ユニバーサルデザインについても、しっかりと打ち合わしていきたいと考えております。

世界遺産の登録に向けては、現在、いろいろな知見を重ねていただきながら進めているところです。環境省の世界自然遺産登録候補の報告書によれば、「可能性は認められなかった」とのことでありましたが、他の候補地と違い、阿寒とこの周辺地域には報告書の中にただし書きが付けられていました。ただし書きが付くということは、登録の可能性が０％ではないということであり、非常に大きなことだと考えております。さまざまなＰＲをし、いろいろな場面でお話をしていきながら、世界自然遺産登録に向けてしっかり進めていければと思っております。

私も名刺は阿寒のまりもが入ったものを使っているところです。皆さんにもさらにバックアップをよろしくお願い申し上げます。